

7,280			
4,550		2,730	
1,820	910	1,820	
前面道路			

7,280			
4,550		2,730	
1,820	1,820	910	

10,920
3,640
7,280
1,820
1,820
3,640

10,920
3,640
7,280
910
2,730
1,820
1,820

10,920
8,190
2,730
910
2,730
910
1,820
2,730

設計条件
 家族構成: ご主人(50歳) 奥様(45歳)
 長男(20歳) 長女(16歳)
 床面積: 35坪程度
 広いLDと、それに続く8畳の座敷
 台所はLDからあまり見せない
 就寝は全員ベッド使用
 納戸はできるだけ広く
 雨が降り出しても濡れない物干し場
 1台分の駐車スペース

吉田桂二の「誌上」木造建築学校
 第6回応用講座
 条件付き敷地に建てる住宅-2(町屋型住宅)
 建築雑誌2007.06

作成: 2007.11.22

110% Architectural design room

隣接建物
文房具店 2階建て

隣接建物
美容院 2階建て

住宅 平屋建て

住宅 平屋建て

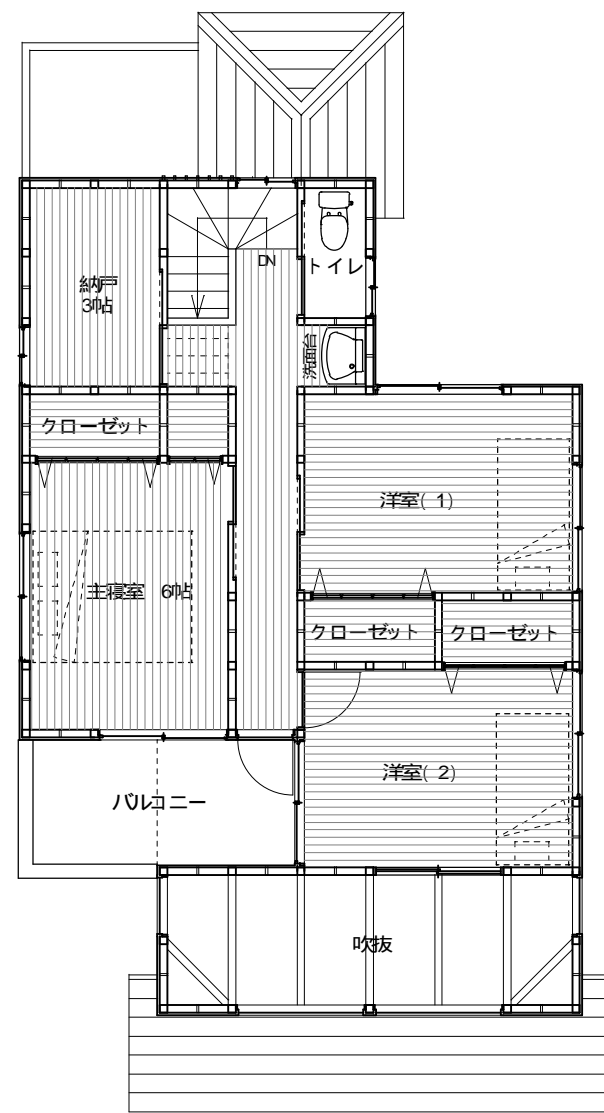
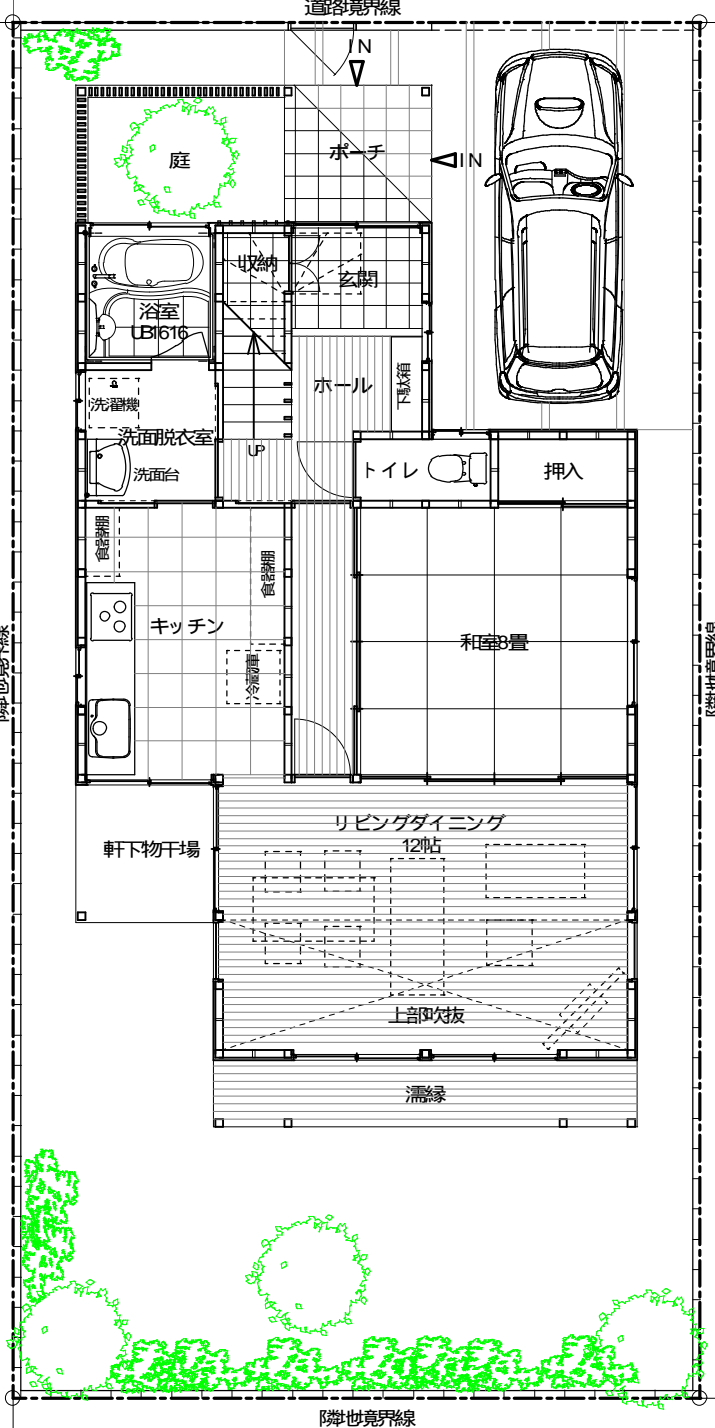
2階平面図 S=1/100

1,820	910	910	3,640
			5,460
7,280			

1,820	1,820	1,820
5,460		
7,280		

1階床面積	65.420m ²
2階床面積	52.170m ²
延床面積	117.59m ²
35.6坪	

1階平面図兼配置図 S=1/100





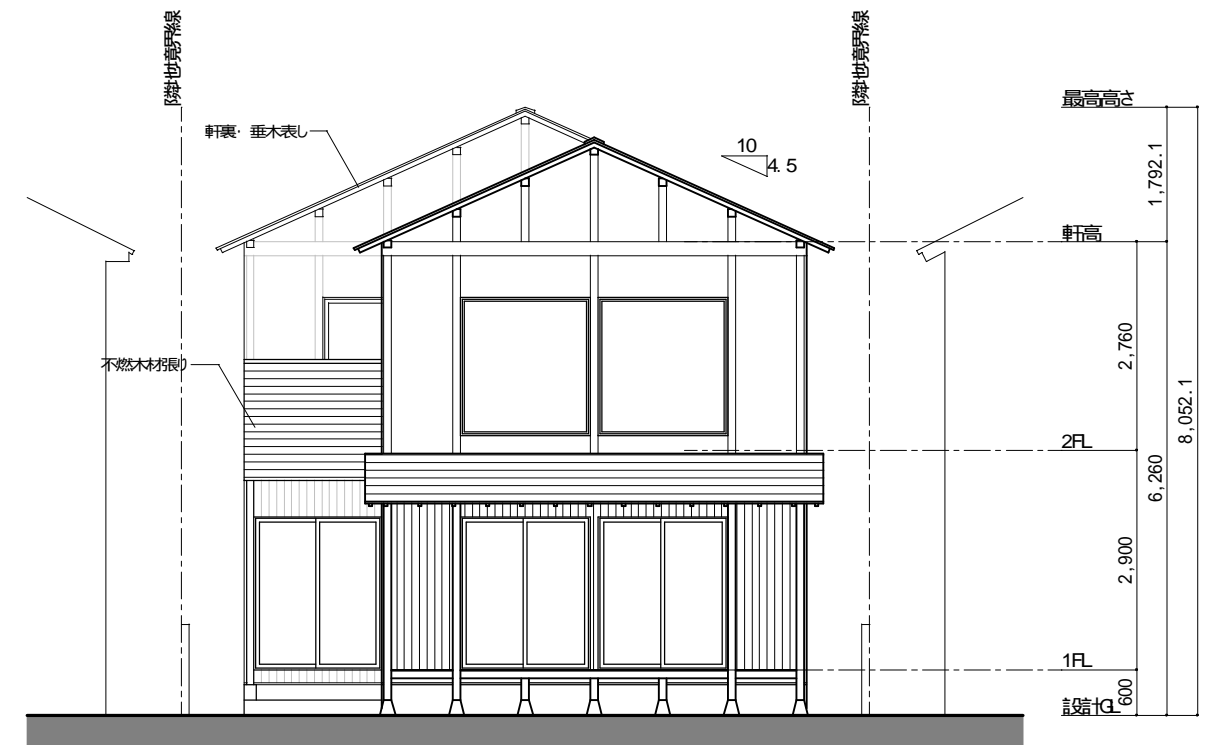
北側立面図 S=1/100



東側立面図 S=1/100



西側立面図 S=1/100



南側立面図 S=1/100

吉田桂二の「誌上」木造建築学校

第6回応用講座

条件付き敷地に建てる住宅-2(町屋型住宅)

建築雑誌2007.06

作成: 2007.11.22

心地よい和の住宅

設計:伊藤建築設計室 二級建築士事務所



建築条件が同じだったとしても、計画を担当する設計者によって生み出される建物は十人十色です。設計者の好み、性格、考え方、能力などの条件が、設計建物に大きく影響されます。

今回の計画は、月間情報誌「建築知識」の中にある「吉田桂二の[誌上]木造建築学校」という特集記事に基づいています。

この特集は、誌上で住宅設計の課題を添削しながら講義を展開するというもので、講師と生徒の2つの視点から課題を見ることによって、設計の基本を鍛えようというものです。

その中で、建築知識2007.06号「第6回応用講座:条件付き敷地に建てる住宅-2(町屋型住宅)」の設計課題を、私なりに計画したものです。



この特集を読むと、同じ設計条件でも、いろんな計画が考えられることを改めて感じます。

そして、自分だったどんな計画をするか、ということを試してみたくなりました。

設計条件のみを見て、生徒から出てきたプランや、その評価の記事には目を通さずに計画を行いました。



町屋型住宅

とある商店街の通りに面する建築地で、町屋型というテーマになっているので、外観は日本の伝統家屋を思わせるデザインにしました。

両隣が、美容院と文房具店です。お店の外観イメージに影響しないような控えめの色調にしています。控えめながらも、焼杉を張った外壁が落ち着きと存在感をだしています。

和(なごみ)

玄関の側に、坪庭を設置しました。坪庭に植えられた植栽が、家に帰ってきた家族や、訪れたお客さんの心を和ませてくれます。

又、坪庭は浴室にも面しています。浴室の窓を開けて露天風呂感覚を味わえます。

家の外側からも内側からも、和みの効果を演出しています。



玄関の引き違い戸を開けて、屋内の様子を眺める



中庭状の庭で、採光・通風を確保

南北に縦長い長屋状の敷地の為、周囲を隣地建物に囲まれています。囲まれた空間の中に、ぽっかりと空いた庭スペースが、中庭になって家族だけのプライベート性を高めてくれます。

近隣建物の窓位置を上手にかわしているので(別紙平面図参照)、隣地建物からの視線が気になりません。

縁側で家族でくつろぐのもいいでしょう。

(パース下)



雨が降り出しても濡れない物干場の設置が、設計条件の一つになっています。

バルコニー下の軒下スペースをうまく利用することで、物干場を確保しています。

キッチンからも直接出入りできるので、家事の効率にも配慮しています。





開放性の確保

リビングダイニング空間には、吹抜けを設置しています。

長屋状の敷地なので、閉塞感がつきものですが、吹抜けを設置することで開放性を確保しています。

庭の植栽と、吹抜け上部の窓から見える青空、リビングの窓を開ければ風が部屋の中を流れていき、季節や気候を感じることができるリビングダイニングです。

家族の繋がり

リビングダイニング空間に設置した吹抜けには、2階洋室も面しています。

16歳になる娘さんの部屋として計画しました。

2階洋室の吹抜けに面した部分には窓を設置していますので、吹抜けからの光りを取り入れたり、リビングでくつろぐ家族との交流を持ったりできます。

部屋の明かりが灯ったりする様子で、娘さんの様子を感じ取ることができます。



開放性と閉鎖性の両立

設計条件に、台所はリビングダイニングからあまり見せないという条件があります。

キッチン、リビングダイニングの視線からは外した位置に設置して、独立性をもたせました。

開口部を活用することで、キッチン空間自体は開放感のある空間づくりを目指しています。

洗面室 キッチン 庭(物干場)と、連続した動線計画になっているので、家事効率という生活の実用性も考慮しています。



写真

間仕切の上手な使い方:部屋のいろいろな使い方

広いリビングダイニングと、それに続く8畳の座敷という設計条件があります。

リビングダイニングは、12帖の広さと吹抜けて、広い空間を作り出しています。

それに隣接して8畳の和室を設置していますが、リビングダイニングと和室を仕切の間仕切の開け閉めで、いろいろな部屋の使い方ができます。

まず、間仕切襖を締め切ること、和室単体として利用できます。

来客の応接や宿泊に対応できます。

(写真)



写真

次に、リビングに面する部分の間仕切襖を開けることで、広いリビングダイニング(20帖)として利用できます。

廊下側の間仕切襖は仕切っていれば、和室に來客を通して、リビングごしの庭を眺めながら応接ができます。

リビングダイニングと和室を、半一体的に使うことができます。

(写真)

そして、和室の間仕切襖を全て開けると、ひとつのリビングダイニングとして利用できます。

(写真)



写真